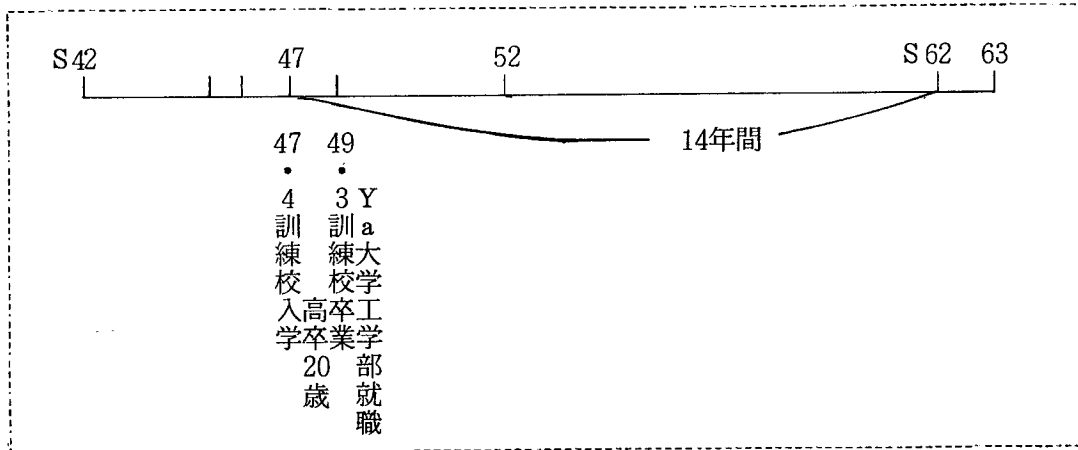


Ⅳ 旧型技術を基盤として機械加工を指導している教室

〔事例 10〕 Am 氏 (Y a 大学)



To 現在、どのような仕事をしておられますか。

Am 二通りになります。午前中は、学校の先生方の実験の資料とか実験装置とかを作る。午後
は、機械、精密電気、電子の3年生を対象にして基礎教育というか、実習を担当しています。

To 3年生の技術のレベルは～。

Am ほとんど初心者です。旋盤をやったことのあるのは100人に1、2名です。初めて削って
“削れた。”うれしい”という感激をもって帰るのがほとんどです。

To 簡単なものを削ってみると～。

Am 丸棒の外径削り、テーパ―とネジ切りをやって終わりますけれども～。4つやればいいとこ
ろです。

To どのくらいの時間で～。

Am 科によって違いますが、機械科が4時間です。正味、4時間～。

一応、(機械に)さわってみるという感じです。旋盤という門へつれていくというか、その
ような感覚です。

To 訓練校を卒業されてすぐにこちらに入られたのですか。

Am 49年4月に入り、同じ所でずっと変っていません。他の企業で働いた経験はありません。
見学に行ったことはありますが～。

To 大学での、このような仕事と民間での機械加工の仕事とではかなり違いますね。

Am 違いますね。友達から聞いた情報だけれど～。

To 教育という点に自分の存在意義をおくことになりますね。Wa先生と同じような～。

Am 学生にわかってもらうというのを、半分ぐらい考えます。どのような指導をしたら伝わる

か。作ることも大切であるが(学生に)旋盤というものを知ってもらいたいというか、どのように取りつけたら操作できるか、そっちの方を考えている。

To 14年間、今の仕事をやってこられて特に印象に残っていることは～。

Am 先生方との接触は研究というものが第一にきますから先生方のニーズにそったものを一生懸命に作る。あまり先入観にとらわれないで～。

学生の方は地味でもよいのですが、一週一回の実習で何か旋盤というものをつかんで“次にまたやってみたいな”という気持ちがちょっとでも旋盤に向けてくれたらな、というぼくの気持ち
が強いのですけれども～。

とにかく、一つか二つ、今日の実習は楽しかったとか、またやってみたいなとか、という気持ち
が起きたら成功したなと思っています。

実際にもものが出来あがるのは初心者の段階ですからあまり期待することはできないけれども
やり方がわかったとか、“もう一回やったら先生うまくいくよ”と(学生から)言れると、うれ
れしくなる。

To 職業的アンデンティティというか、自分の心をどこに投入しているか、その辺の心境がわかります。

Am 夢中になってやれるからむなしとか空虚であるとか思わない方がよいと思っている。

もちろん、ダメだったということもあるのですがダメだったらそれでよいではないか、また次がんばればよいと～。どんどん前に進む。若いんだから～。いろいろのことを知ってやりたい。失敗も当然だと～。

To 学生さんが“楽しかった”といってくれる、学生指導に自己の存在感をおいている。これはすばらしいことです。

～

To ME化ということが世の中で言われている。その辺に関して教育の内容を変えていくというようなことは考えていますか。

Am 今、ぼくのやっているのは普通旋盤です。自動化と言われても実際にやったことはない。14年間、普通旋盤、そればかりです。

To 就職されてから14年に、何か研修に行ったり、教育を受けに行ったことがありますか。

Am 旋盤は技能検定をWa先生の御指導で訓練校で受けさせてもらっています。

2級は7～8年前、1級は3年前、指導員は5～6年前に合格しています。全部、先生のおかげで資格をとることができました。

それがぼくの旋盤の実力に影響があって、ふりかえるとよい勉強になっています。

1級までいくのに10年かかったのです。

To 1級技能検定をとるときは準備講習など受けられましたか。

Am 訓練校へ、3日間づつ2週間かよいました。仕事を終わってからバイトとかを持って～。夏休みであったと思う。

基礎知識、やり方を教えてもらって実際に2、3個、検定の品物をつくったのをおぼえています。

(旋盤の基本操作を学生におしえているAm氏にとっても基本にもどる意味でも検定受験がよい勉強の機会になったと思われる。)

To そのほかに講習会に行ったことは～。

Am バイトの講習。フライス盤の講習に行っています。訓練校へ～。

(訓練校へ行って、と表現されており、向上訓練という言葉は出てこなかった。)

To (それらの講習に参加したのは)実習を担当する意味で少しでも知識を追加しておきたいと～。

Am なるべく新しい知識を吸収したいという気持ちがありましたね。やはり、学生と接触するとどうしても学生の方が新しいことを知っていますからね。ついでいきたいし、自分も知りたいし、仕事もより高いレベルにむかっていたいという気持ちはありますね。

To 技能開発センターでの向上訓練では受講者の要望によって講座が組める仕組みになっている。それはご存知ですか。

Am 知らないですね。

To (向上訓練コースとして)こういうようなものをやったらという提案をいただきたい。

Am いろいろあるのでしょうか～。

ぼくの実際にはほしいのは旋盤の基礎知識です。機械加工の基礎知識。

例えば、正確な名称に対しての定義づけ。

ビスと呼ばれているもの、ボルトと呼ばれているものがある。ぼくはあまり知らなかったのですが何mmぐらいでビスとボルトの呼び方が変わるのか、その辺のことを正確に知りたいですね。

(正確におぼえていないと)学生に教える時に困るのです。

そういった時に、もう一回勉強しておさなければならぬことがでてくる。もう一回というのはおかしいですが、ものごとをつきつめて考えなければならぬから～。

ウソを教えると学生は10年ぐらい覚えているから～。

もう一度、加工技術について、いろいろな新技術もでてくるからもう一度おさらいしたいな～と思っている。

仕事が終わってからでしょうね。自分で少しづつやるのですけれども～。

全体を整理して体系だてて、切削理論でもよいから勉強してみたいと思う。

T o 今、言われたことはまとめてみると次のようになるでしょうか。

第1に、学生は新しいことを知っている。だからなるべく新しい知識を吸収したい。これは技術の変化に対応して自分もついていくという教育機能である。

第2に、（今、知ってはいるが）もう一度おさらいをしたい、正確におぼえたい、ものごとをつきつめて考えてみたい、というのはベテランの職業人にとって極めて大切な教育機能である。長い職務経験の中に、バラバラに習得されている知識、技能を体系的に整理してみる。（“教える”という立場にあればなおのこと、これらの2つの教育機能が大切になる。）

Am 訓練校の2年間で、わからなかったことが今になってわかってきた。あの時、先生はこういうことを言いたかったのかな。

バイトを研ぐのでも最初、ぎこちなかったのが最近、うまいと言われるようになってきたから～。

もう少し、復習みたいなことがしたい。

T o 訓練校で最初にバイト研摩を教わったのと、今になって再び同じバイト研摩を教わるのではその意味は違っている。

この間には経験が入っており、再びバイト研摩を学ぶ受け手の体質が変わっている。

その意味で、経験のある人が基礎的なことを学びなおす場合、どのような内容で、どのような方法でやればよいでしょうか。バイト研摩を例にすれば～。

どのような講座があったら行ってみたいと思いますか。

Am ステンレスの加工などが多くなっている（その面の加工法を～）

T o ベテランが機械加工の基礎として学ぶとき準備しておく要素は～。

Am 具体的には思いつかない。“旋盤のテクニク”（大河出版）のような簡単な解説書はわかりやすかったのですが～。

やっていくうちに何かにぶつかって“何だっけ”と思うことがあるのですけれども～。

やっていくうちに、“あれなんが、おかしいな”ということがでてくる。その時に室にもどって調べて実習に再び出ていく。

モールステーパーはいくつだったけか!!とか、何分の1のテーパーだったのか!!実際のそれと結びつかない。何度であるということはいたいおぼえているが～。

J I S規格も知識としてもう少し、しっかり記憶したいし～。切削技術だけでなく、工作全般ですね。要求されるのは～。

例えば、学生にやらせるとギヤーが入らないという。こうやれば入る、これでは入らない。学生は知っているのだけれども、やり方を学生に教えないとわからない～。

ちょっとしたことなのであるが、それが授業で教えられるかどうかで、かなり授業内容が違

ってくる。

わからない所でとまってしまうと、そこで学生の指導が終わってしまう。つまらない(授業になってしまう。)

ここでぼくが“一言”ポツと言うと、“あゝそうだったのか”と安心して次へ行ける。

そういう、喜び。解決した喜び。実習をやっていく上で(このようなことを)教えなくては
いけない。そのような細かいことを自分でもやってみたいと思っている。

(そのためには、向上訓練において基礎的なことを正確に学びなおす必要があると～。)

Wa 機械工学の基礎的な知識があれば歯車と歯車がかみあわないことが学生に説明しやすい、
ということでしょう。

学生から“ボルトとは、ビスは”と質問されたときに、自信をもって“ビスとは～で、それ
以上のものはボルトです”と言えるようになりたいということでしょう。

～

To 実務の裏づけというか、“なぜ、こうするのか”これを知らないと説明ができない。

今教えている事柄が断片的なものである。

これがAmさんの中で、全体の中のどういう位置にあるのかが整理されて、その部分がうまく
取り出せるようになることをのぞんでいるわけですかね。

体系的なものにもう一度もどって学びなおす機会が必要であると～。

To この辺は向上訓練の教育機能として拡大していかなければならない点だと思います。

問題は、経験をつむ過程で自己の経験、技能、知識をふりかえる必要を自覚していない人も
世の中には多いように思うのです。

自分の今までにやってきたことをふり返らない。“これでよいのだ”と～。

最初に言われたように、“学生さんに旋盤を少してわかってほしい”ということに自己の存
在感、存在意義をおいているゆえに、自己の経験をふりかえてみようとする気持ちが起るのでは
ないかと思います。

(職場における自己存在感が明確になっていない人は、何を勉強していったらよいか、がでて
こない。)

～

(「旋盤技能クリニック」の説明。)

To Amさんにとって訓練校で勉強された意味とは～、どのようなことになるでしょうか。

Am 厳密なことではないが～。

高校出てから訓練校へ。就職する前の訓練ですから現在のような仕事につくとは思ってはい
なかった。

ですけれども、ともかく物をつくったり、工作したいという気持ちが強かった。

(職業訓練は)その連絡というか、パイプのようなものです。

To 小さい頃から物をつくるのは好きでしたか。

Am 何か得意だったらしいです。

木を削ったり、プラモデルを作ったりするのが得意で、手先が器用だったのかな。そのようなことから（訓練校を）選んだと思うけれど～。あまりはっきりしない。

多くの中学卒業生の中に高卒は4名であった。一時期は、なんだおれもこの程度か、と。一番下まで落ちたような気持がした。

高校を出て大学へ行けなくてドサッと落ちたような気持であった。

結局それが原点みたいなもので、落ちたことがかえってバネになって～。“おれはこの程度か”安心したようなところがあった。ここから上へあがれば、若いからがんばれば何かできるかもしれない気持がおきて、卒業する少し前に、そのような気持が強くなったのをおぼえている。

卒業の2、3ヶ月前には授業が真剣勝負のような感じで、何かにとりつかれたように必死になって勉強したのをおぼえている。

（今の職場に）入って訓練校でやってきたことが役立っていると思っている。

直接的には学生の実習を担当しなければいけないので知識がなければいけない。それに役立っている。

だから、職業訓練は必要だと思っている。

世間ではあまりみとめないかもしれないけれども～。

ぼくにとっては有意義な時間だったと思う。

To “ぼくにとっては～”といわれる、このところが大切なのでしょうかね。

～

Am 工業高校からならよいが普通高校から職場というのは落差が大き過ぎてつながらないのでは～。一度、どこかで専門的訓練を受けて現場にいった方がスムーズに流れるし、苦労しないと思う。

To 訓練校を出てよかった、というとき技術的な面のほかに、仕事に対する取組みとかものの考え方の面でも意味があるのでしょうか。

Am （訓練校には）いろいろの機械が入っており、そこを出たおかげで、あらゆる機械が操作できたことです。

職場では機械操作について教える暇がない。それぞれの専門の仕事についているので～。訓練校でやってきたので、“これはあゝだよ”と基本的な説明をうければ、（機械が）とりあつかえる。

もうひとつは、ギャップがなく、スラスラいけたから一生懸命になれた。そういうことを知っていることが自分にとって、ガンバレる原因になったのでしょうか。知っているか知らないかで違うのでしょうか。

To 職業訓練は必要であるが、一時的には精神的に圧迫をうけた、と言われたが～。

Am 大学入試に落ちて訓練校に行ったわけです。当時、18歳で若かったから、世間的な目というか、訓練校に対する目は冷たいです。中には理解してくれる人もいますが～。大多数の人は見下げるわけです。

それで、ぼくはいつかはガンバルぞという感じが逆に出てきたのですがね。今は落ちていても上がるのだと～。自分の存在証明をしたい気持ちが強かった。ガンバって世の中を変えられたら～、という野望があったのかな。

冷たい目で見られていても、それは偏見であって誤りであるということが どこかで言い表わせれば～と。

ドロップしたおかげでそこがわかった。

(職業訓練を)なぜ、見おろさなければならぬか、その理由がないから～。絶対に必要なのだというのが卒業してからわかったのですけれども～。

職業訓練を見下げるどころか重視していかないと技術中心国としてはやっていけないのでは～。

何かおかしいという気が～

(訓練校にいる時は)皆んなにバカにされたけれども今、思えばよい思い出であった。そう思っている人が少しでもいえば～。そういう風潮が消えればいいわけです。

～

To 技術的な意味での学校と職場とのパイプが強調されており、これから自分は機械という職業を通じて生きていこうとする、自分の存在意義をしめす核を機械の仕事にたくしていくのだ、というような職業訓練における自己存在意義の核づくりは強調されていなかったのではないか。

技術さえ身につければ～と。

To 今後のAmさんの夢。どのようにしていきたいですか。

Am 目先のことでいっぱい～。

(この職場は)9名ですが、自分のできることをしたい。

技術的な実力をつけてこの職場を働きやすくしたい。生きがいのある、人生として悔いのない、皆んなと一緒に生きたいというか、～

ぼくはクリスチャンなものでそのような方向を持っているもので～。

自分を燃焼しつくしたい。一生懸命やりたいというのが強い。

何が具体的に出てくるのかわからないけれども～。平凡でもいいからたくましく～。

あまり世間的にうけたいとは考えていない。